


社会福祉法人 武蔵野 月報	武蔵野日記 第92号	発行日 平成29年12月1日
	発行人 社会福祉法人武蔵野	
	武蔵野市吉祥寺北町4-11-16	
	0422(54)7666	
(10月25日~11月24日)	12月1日現在	職員総数 306名

私たちにとって支援の共通基盤とは何か

みどりのこども館 館長 後藤明宏

私たち法人では毎年社会福祉士の実習を受け入れています。実習先は多種多様な事業所で行い、それぞれの現場で担当職員が工夫を凝らして学生に指導を行っています。多様な現場での社会福祉士実習指導プログラムなどを模索しているときに、「社会福祉士実習指導者のための相談援助実習プログラムの考え方と作り方」(中央法規出版)を読む機会がありました。

その本の中で著者は、高齢の入所施設やデイサービス、障害者施設、社会福祉協議会、児童施設など多種多様な現場で行われる実習において、社会福祉士として学ぶべき共通の内容は何かと問いかけます。そして、それに答えながら「社会福祉士として基礎的・通底的に学び習得しておくべきソーシャルワーク体験」として以下の4つの内容を提案します。

1. 「権利擁護とサービス向上」、2. 「個別支援」、3. 「地域支援」、4. 「連携・ネットワーキング」の4つです。今回、私もこの4つの視点を用いて私たち法人職員が行う支援の共通基盤について考えてみたいと思います。

「権利擁護とサービス向上」は、支援の土台となる部分ですが、ここで注目すべきことは、当事者の主体性、自立性を尊重しようとすることです。「医療モデル」から「生活モデル」へと唱えられていますが、そこで求められる発想の転換の一つは、利用者を受動的に捉えるのではなく支援の主体者、権利の主体者としてとらえた上で、利用者の自立支援を目標に置くということにあります。支援はまずこうした考えの上に展開されていきます。

「個別支援」はアセスメントと個別支援計画作成が中心的な内容ですが、目的は上記の当事者の自立、主体性を尊重するという支援の原則に則ったものとなります。また、利用者を取り巻く家族、環境、社会を含めた生活を全体的な視野に入れた計画であることも特徴の一つです。

「地域支援」は、単に地域を対象とすることではありません。利用者にとって、成長、自立、または障壁など、すなわちその人の生活全体は、取り巻く環境や社会との関係の上に成立します。このようにその人の生活のつながり、人間関係や活動などの舞台の場として「地域」があります。したがって地域支援とは、その人とその人が暮らす生活、その土台となる地域を人間関係や社会関係、制度等含めてより良い条件の場に変えていこうとする取り組みとなります。ボランティアの導入や、社会資源の活用、組織や制度の改善など幅ひろい内容がありますが、つねに利用者の生活とのつながりを視野に入れた支援となります。

「連携・ネットワーキング」はこうした地域支援を行う上で必要となる手法です。地域という生活エリアにおいて、福祉のみならず医療、保健、まちづくり、交通、警察、防災、企業、商店街、市民、NPOなど多様な人々や社会資源と連携をつくり支援の輪をつくっていくことが今後は求められていきます。

ソーシャルワークというと、医療機関や相談支援機関等の中で専門相談員が行う個別面接といったイメージが強く残ります。確かにそうした面もありますが、上に述べた4つを共通の視点とする支援のあり方を「広義のソーシャルワーク」と呼ぶならば、こうした支援のあり方は、私たち法人職員が日々取り組んでいる支援の共通的内容といえるのではないのでしょうか。

私たちは、高齢分野、障害分野、児童分野、その中でも相談支援、介護、居宅、就労支援やデイサービス、リハビリや発達支援など多様な専門領域で支援を行い、ともすると専門性の視点にとらわれて違いが際立ってしまいます。そうした今こそ、私たちは、地域福祉を基盤とし利用者の自立支援を目標とする支援者として、各専門領域に通底し共通基盤となる「広義のソーシャルワーク」を確立する必要があるのではないのでしょうか。

書店に並ぶビジネスの指南書を開くと、「仕事とは問題解決の連続である」という一節によく出会います。「解決すべき問題」と言われると、ミスやクレームの事後処理のようなネガティブなイメージを思い浮かべやすいものですが、そうではないようです。例えば、「お客様から、自社には無い商品やサービスの要望を受けた」ということがあった場合、この要望に応えることは、お客様が望む商品やサービスが無いという今の状態（問題）を解決することになります。つまりここで言う「問題」とは、既知あるいは既存ではない事実が発生・発見された状態を指し、その状態の解決を図り、そのようなことを続けることが「仕事」ということになります。

もちろん、「取り扱ったことがないので、うちではできない」と考え、「弊社では取り扱っていません」と答えるのも一つの方法です。ですが、要望に応えることでその会社の取引は増えますし、そのプロジェクトに取り組んだチームにも新たな発見やできることの広がりが生まれます。一方、「取り扱っていません」と応じた後者には、現状以上のものは何も生まれません。

私たちの業種に限らず、仕事をしていると大なり小なり、壁に行きあたることは多々あります。そこで、「〇〇だからできない」「〇〇だから仕方がない」と「できない理由」だけを挙げてそこで終わらせてしまえば、前述のようにその先の展開は見えてきません。「できない理由」は簡単に見つけることができます。ですが、それだけでは物ごとがよく見えるだけの「評論家」に過ぎません。主体的に「どうすればできるか」と視点とマインドを転換させることにより、「できない理由」だけを見ていたときには見えなかったものが見えてくるはずですよ。

棋士の羽生善治さんは「直感力」という著書で、「もがき、努力したすべての経験をいわば土壌として、そこからある瞬間、生み出されるものが直感だ」と、一瞬のひらめきにはあれこれ模索して得た経験の蓄積が大切であることを述べています。それと全く同じではありませんが、私たちも「どうすればできるか」を繰り返すことで、知らず知らずのうちに切り開いた経験が積み重なり、以前は苦勞していたことが次の機会には事もなげに行え、そこに費やさずにすんだ労力は、新たな仕事に向かう活力へとシフトできるのではないのでしょうか。

なお、このテーマには続きがあります。多様な選択肢のなかで自分なりに選んだ正解（そのときの最適解）をもって問題解決をしたとしても、それで満足するのではなく、「これで十分だろうか」、「まだ何かできないだろうか」というその先の「課題の発見力」を身につけることで、より発展的・創造的な仕事につなげていくことができるのだそうです。

と、えらそうに書きましたが、私自身、きちんとできていることではありません。「こうりたい」、「こうしていかなければ」という自戒の意も込め、文字にしてみました。あと一ヶ月で新しい年を迎えます。今年一年を振り返ると同時に、気持ちを新たに自分の仕事への姿勢を見つめ直し、日々起こる「解決すべき問題」に、みなさんといっしょに「前向き」に向き合っていきたいと思えます。



10月23日(月)

これからの時期に向けて

中野看護師を講師に迎え、感染症予防と吐しゃ物の処置の方法について、冬季に多発するノロウイルスの罹患時の対応をテーマに挙げて研修会を行いました。感染経路の確認、普段行っている手洗いでどの程度の汚れが落ちているのか、正しい手洗いの仕方、吐しゃ物の処理や消毒方法など実践を交えながら学びました。

普段からできる予防として手洗い・うがいの呼び掛けを行うと共に、すぐに嘔吐に対処できるような物品の準備をしています。これからの時期を皆さんで健康に過ごせるよう配慮していきます。
(飯吉 博道)

ワークセンター大地



11月2日(木)

待機！！

ゆとりえ特養では、平成17年度と24年度に感染性胃腸炎の集団感染があり、終息までには相当の時間と対応を要し、入居者の生活へも支障が出ました。その経験を活かし感染性胃腸炎の流行に備え、この時期に「ノロカート」を準備します。

このノロカートは、嘔吐物処理や居室に隔離する際に、すぐに必要な物品を取り出せるようにセットしてあります。毎年行う嘔吐物処理の実習を通して、また職員の「これがあると良いかも」「こうなっていたら使い易いよね」の声を取り入れて、少しずつバージョンアップして待機しています。

(佐藤 博美)

特別養護老人ホームゆとりえ



11月2日(木)

仕事終わりの楽しみに

いんくるを卒業しても交流できる機会を提供しようと「就職者の会」を始めて6回目。3連休の前日、仕事を終えた卒業生達は吉祥寺のシェーキーズに集まりました。今回はお店を利用して食事会を催しました。到着時は疲れや緊張の表情も見られましたが、ピザやパスタ、デザートのお皿が机いっぱいになり並べられた頃にはリラックスした様子になりました。近況を伝えあうことや最近の話題に触れて盛り上がることもあり、楽しく過ごしました。仕事から離れて気分転換ができたでしょうか。これからも続く職業生活を応援していきます。
(小池 陽子)

ジョブアシストいんくる



11月6日(月)

「集中タイム」今秋導入

職員室内では、頻繁に相談や業務連絡の電話が入り、職員同士の確認の会話も飛び交います。その中でより効率的に業務が行えるよう、集中タイムを設けました。各職員が1日の勤務時間内で1枠45分間の集中タイムを取れるようにし、自分で当日のスケジュールボードに印を付けタイム取得を申告。時間中はタスキを着用するので周りからすぐわかります。タスキをかけた職員は業務に集中。周りも自分以外の職員の業務を意識し、また自分が今何をしているのか、どれだけ時間をかけているか自覚できる取り組みとなっています。(前山 智子)

地域療育相談室ハビット



11月20日(月)

「畑に来ています」

ある記憶障害の方の通所先を探し回っているうちに、畑に行き着きました。高次脳機能障害の方の受け入れには、失敗体験しかないとおっしゃっている施設の方に、ご利用者が一人の「働く人」として信用され、仕事を任せて頂けるのか、私の力量も試されていると感じています。ご本人に残らない記憶を記録に残すため、手帳の使い方、指示をメモに取ることなど、以前の社会人生活では必要としなかった事柄の定着に、私との攻防が繰り広げられます。ご本人の「働きたい」気持ちを大切に、人生の新たなステップに踏み出せるように、今日も一緒に出かけていきます。(田中 治子)

高次脳機能障害相談室ゆいっと



事務局より 12月の予定

2日(土) 中堅層・リーダー層職員研修
4日(月) 施設長会議
11日(月) 高齢者支援部門職員全体研修
12日(火) 障害者支援部門全体研修

14日(木) 第4回理事会、支援施設説明会①
16日(土) 支援施設説明会②
19日(火) 誰でも相談室
28日(木) 経営企画会議



<編集後記>

朝晩とすっかり寒くなり、日に日に太陽が早く沈み年末の足音が聞こえてきました。

日記の記事にも感染症対策が2つあがっていますが、インフルエンザ、ノロウイルスが流行する季節でもあります。職場内での感染症対策も大切ですが個人の手洗い、うがいから職場にウイルスを持ちこまないようにすることも大切です。

今年も残す所あと一か月。万全の体調で新年を迎えましょう。

デイセンター山びこ 笠原匠充